

【全国】人口動態のポイント

■人口動態の推移【全国】

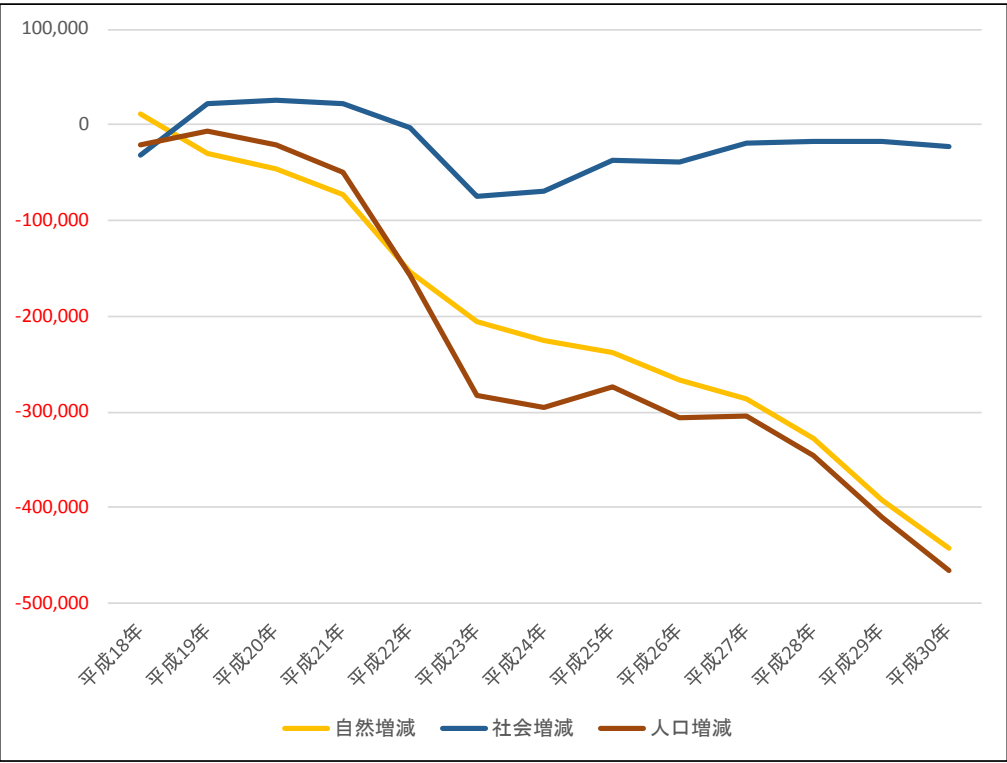
資料4

単位:人

	総人口	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減
平成18年	127,055,025	1,091,917	1,081,174	10,743	5,688,042	5,719,624	-31,582
平成19年	127,053,471	1,096,465	1,125,584	-29,119	5,627,314	5,604,537	22,777
平成20年	127,066,178	1,088,488	1,134,402	-45,914	5,510,512	5,485,613	24,899
平成21年	127,076,183	1,073,081	1,146,105	-73,024	5,346,629	5,324,052	22,577
平成22年	127,057,860	1,070,445	1,224,970	-154,525	5,147,812	5,151,307	-3,495
平成23年	126,923,410	1,049,553	1,256,125	-206,572	5,177,080	5,252,534	-75,454
平成24年	126,659,683	1,029,433	1,255,551	-226,118	5,068,173	5,137,166	-68,993
平成25年	126,393,679	1,030,388	1,267,838	-237,450	5,164,139	5,201,248	-37,109
平成26年	126,434,634	1,003,554	1,270,311	-266,757	5,063,791	5,102,734	-38,943
平成27年	126,163,576	1,010,046	1,296,144	-286,098	5,205,080	5,223,525	-18,445
平成28年	125,891,742	981,202	1,309,515	-328,313	5,048,113	5,064,758	-16,645
平成29年	125,583,658	948,396	1,340,774	-392,378	5,061,360	5,078,418	-17,058
平成30年	125,209,603	921,000	1,363,564	-442,564	5,056,462	5,078,924	-22,462
増減率	-1.5%	-15.7%	26.1%		-11.1%	-11.2%	

※平成25年以前は各年3月31日時点、平成26年以降は各年1月1日時点

総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

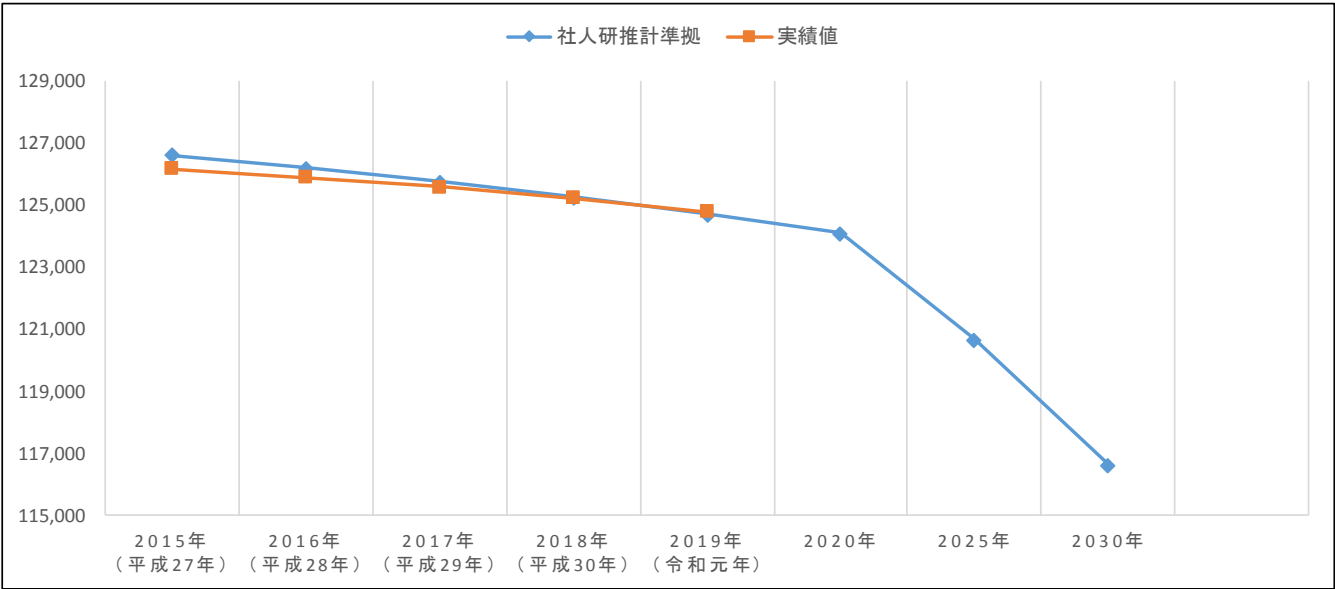


■人口将来推計との比較

単位:千人

	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年	2025年	2030年
社人研推計準拠	126,597	126,193	125,739	125,236	124,689	124,100	120,659	116,618
実績値	126,164	125,892	125,584	125,210	124,776			

国立社会保障・人口問題研究所(社人研)「日本の将来推計人口(平成29年推計):出生中位(死亡中位)推計」



全国的には、人口は平成21年をピークに減少し続けており、平成22年以降は自然減かつ社会減という状況。特に、出生数は、平成18年から約17万人減少し、平成28年以降は、100万人を割り込んでいる。一方で死亡数は約28万人増加し、約134万人となっている。

現時点での人口は、国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョンの策定時(平成26年12月)における将来人口推計と比較してやや緩やかに人口減少が進んでいる。

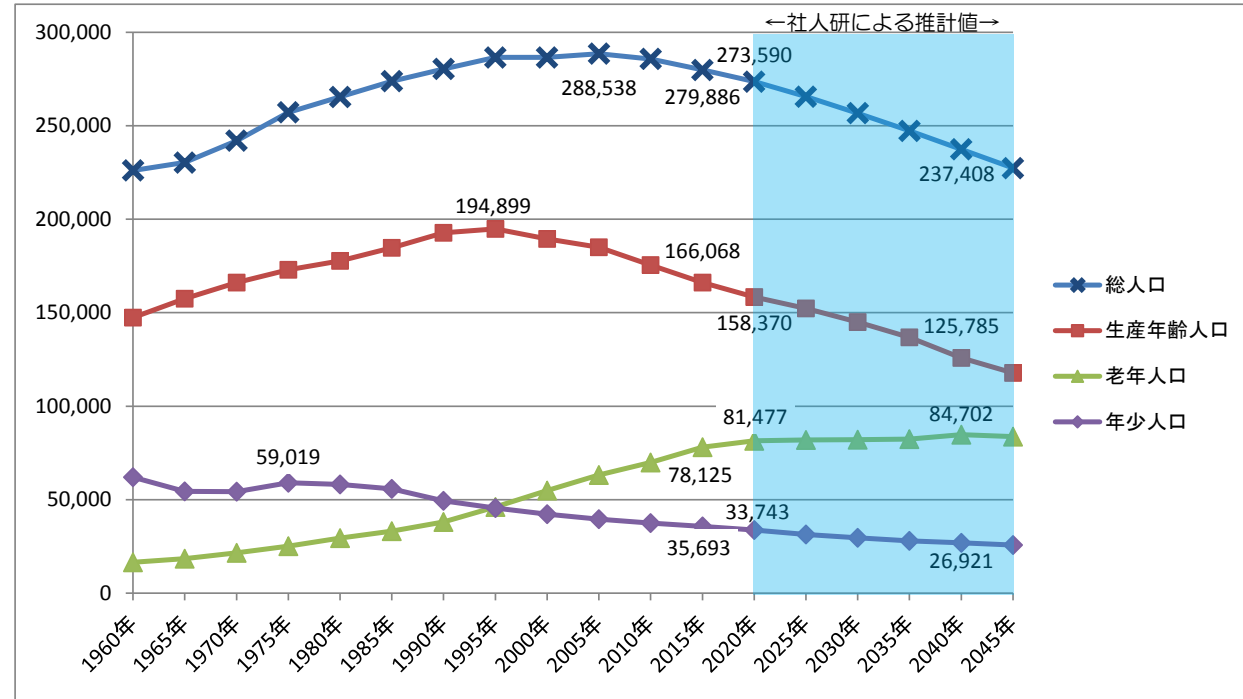
【津市】人口動向のポイント

1 総人口の推移

津市の総人口は、平成 17 年（2005 年）の 288,538 人をピークに減少傾向となり、生産年齢人口と年少人口の減少が続くことが見込まれていますが、第 1 期人口ビジョン・総合戦略の推計（平成 22 年国勢調査ベース）と比べると、減少速度は緩やかになっています。

※第 1 期と比べ、2040 年で総人口は 237,408 人（+6,088 人）。うち、年少人口は 26,921 人（+3,097 人）、生産年齢人口は 125,785 人（+3,175 人）、老年人口は 84,702 人（-184 人）。

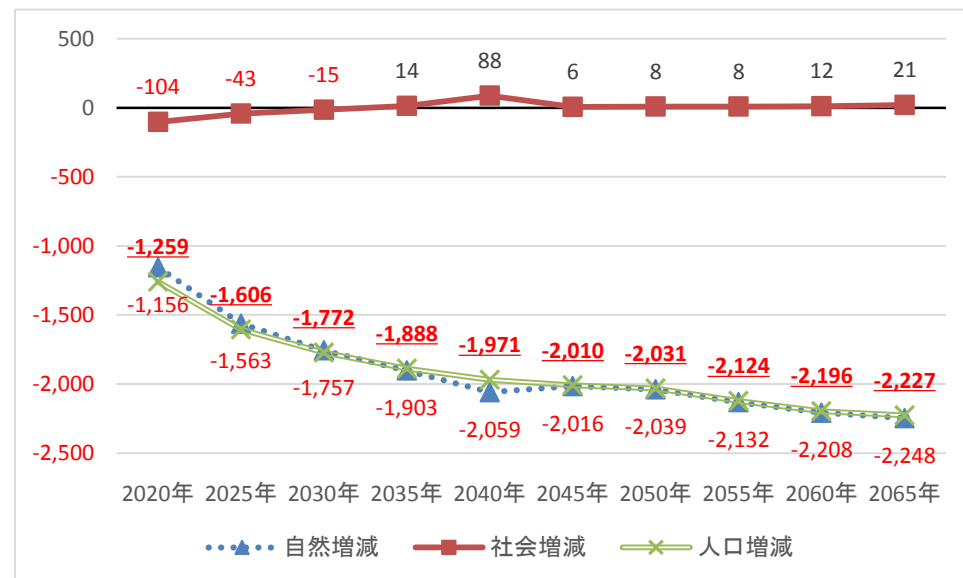
図表 1 年齢 3 区分別人口の推移



資料出所：総務省「国勢調査」、県統計課「三重県勢要覧」、社人研将来推計人口

2020 年以降の推計における自然増減（出生数－死亡数）と社会増減（転入者数－転出者数）をみると、自然増減の影響が大きいことが分かります。

図表 2 2020 年以降における人口推計の内訳



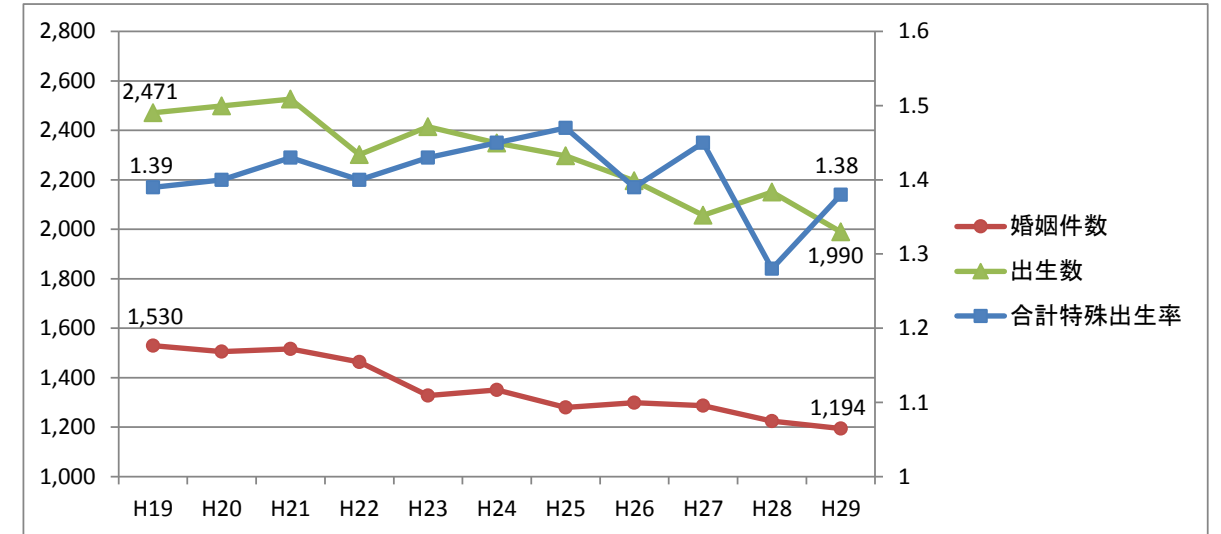
資料出所：社人研将来推計人口

2 合計特殊出生率・婚姻件数・出生数の状況

婚姻件数、出生数が緩やかな減少傾向であるのに対し、合計特殊出生率は若干の増減を繰り返しています。

※合計特殊出生率…15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1 人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する指標。2.07 が人口維持水準（人口置換率）となる。

図表 3 合計特殊出生率・婚姻件数・出生数の関係

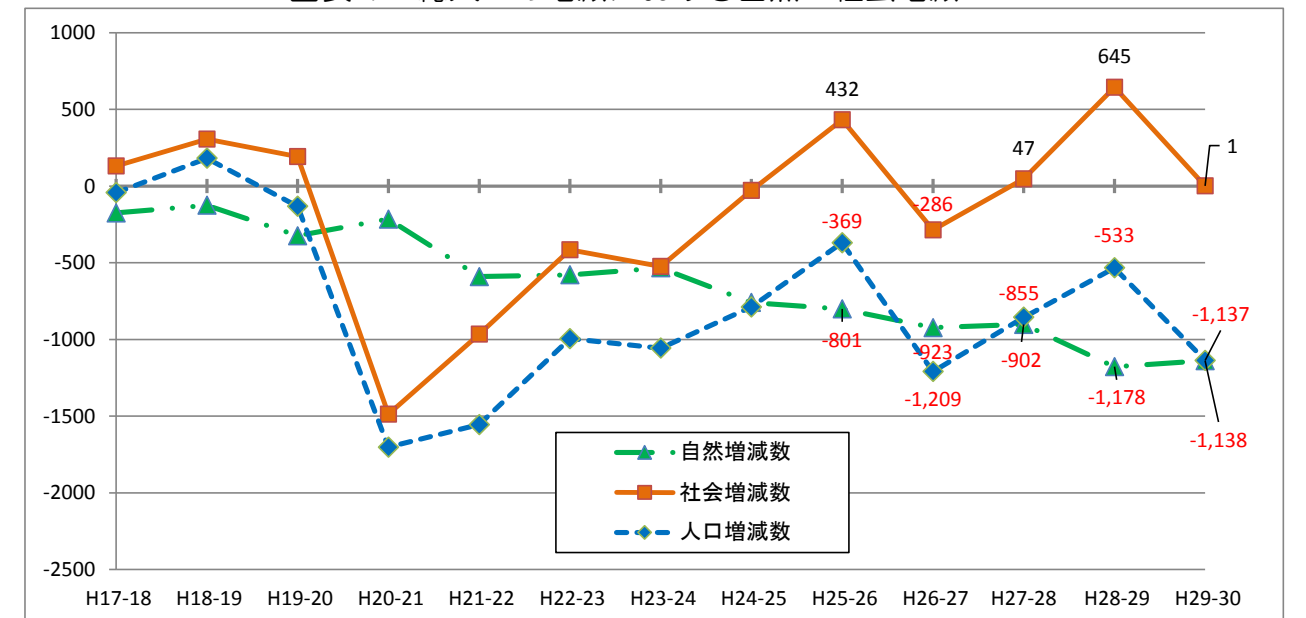


資料出所：三重県衛生統計年報、津保健所年報、県統計課「月別人口調査」・「三重県勢要覧」・「三重県統計書」

3 自然増減・社会増減の状況

平成 17 年以降、死亡数が出生数を上回る状況が続いており、自然減の傾向が続いています。また、社会増減は、平成 20 年（2008 年）以降、減少傾向が続いていましたが、平成 27 年（2015 年）から 3 年連続で転入者数が転出者数を上回るなど、社会増となりました。

図表 4 総人口の増減における自然・社会増減



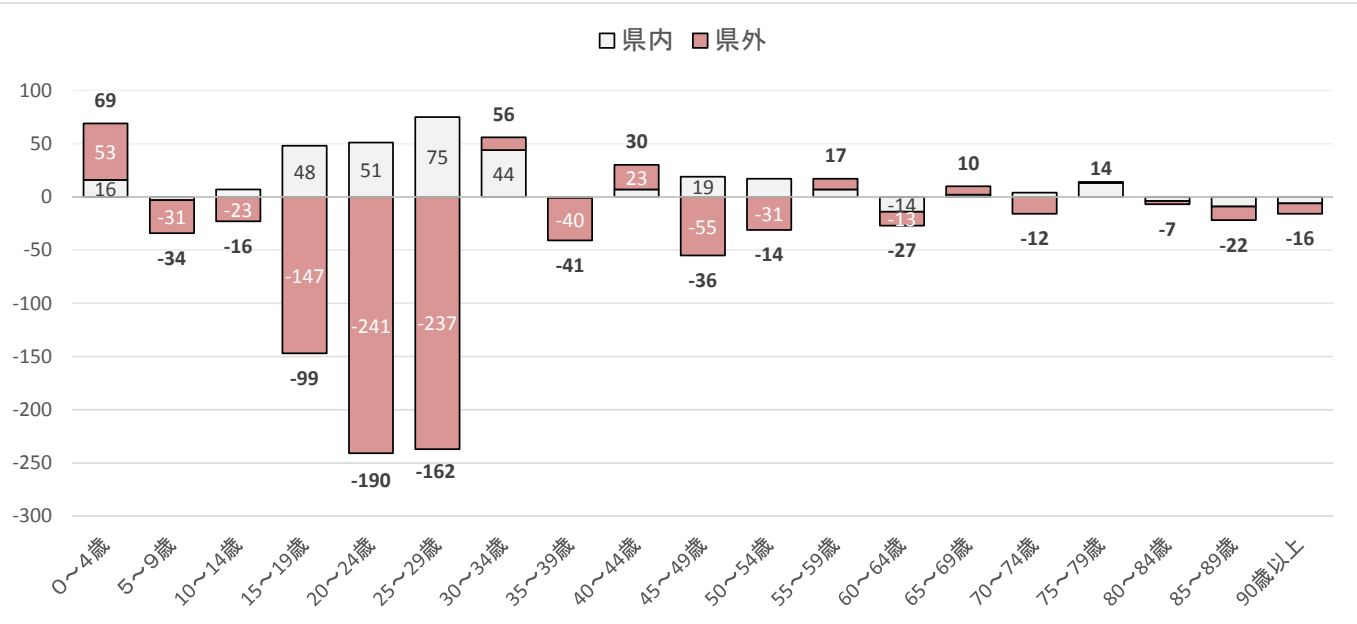
資料出所：県統計課「月別人口調査」（10 月 1 日～9 月 30 日）・「三重県勢要覧」

【津市】人口動向のポイント

4 年齢階級別の純移動数（転入数－転出数）

図表4は、平成30年（2018年）において、転入数から転出数を差し引いた純移動数を年齢階級別で示したものです。特に15歳から29歳までの階級を見ると、県内からは転入超過であるものの、県外への転出超過が大きくなっています。

図表5 年齢階級別 純移動数（転入数－転出数）



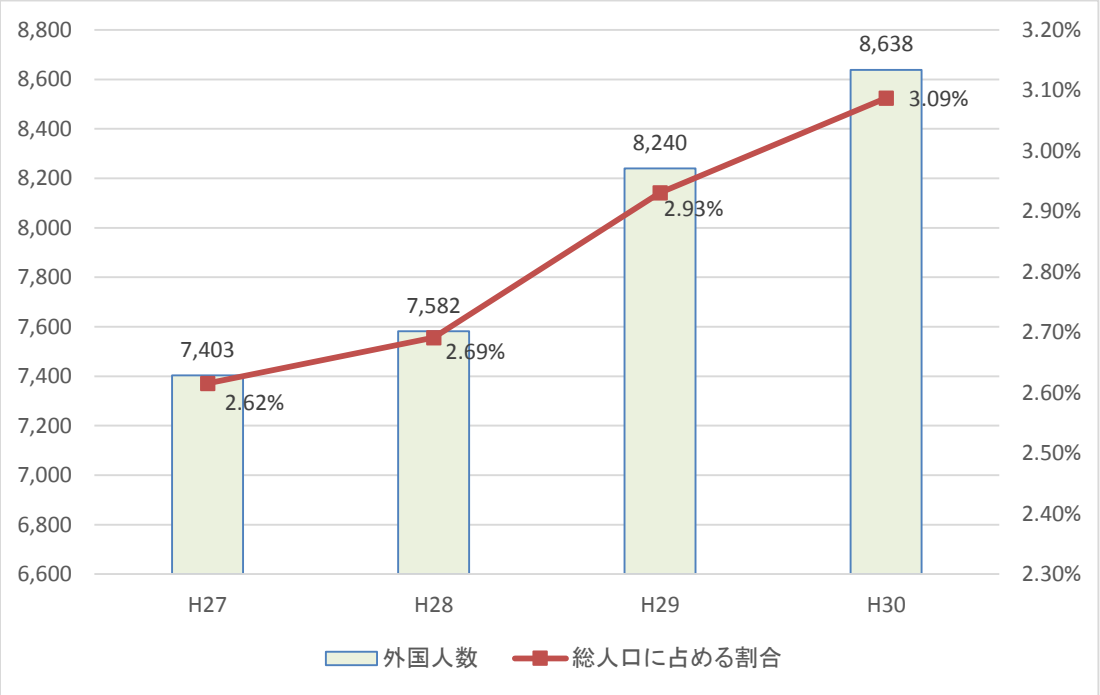
資料出所：総務省「住民基本台帳人口移動報告」 ※図表4と統計データや時点が異なるため、数値は合致しません。

5 津市の外国人数の推移

津市の外国人数の推移と総人口に占める割合を第1期人口ビジョン・総合戦略を策定した平成27年（2015年）から平成30年（2018年）まで見ると、平成27年の7,403人から平成30年は8,638人となり、3年間で1,235人増加しています。

また、総人口に占める割合についても増加しています。

図表6 津市の外国人数の推移

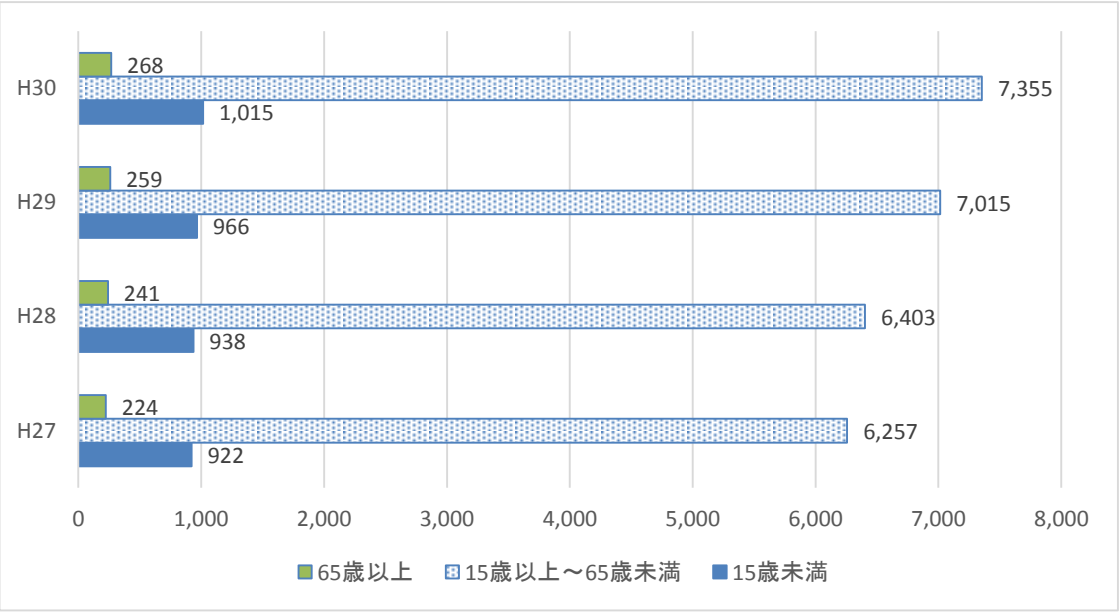


資料出所：津市「住民基本台帳」 ※いずれも12月31日時点の数値

6 年齢3区分別の人口推移（外国人）

平成27年（2015年）以降の外国人の年齢3区分別人口推移を見ると、全ての年齢区分において増加していますが、特に15歳以上から65歳未満の生産年齢人口が年々増加しています。

図表7 年齢3区分別の推移（外国人）

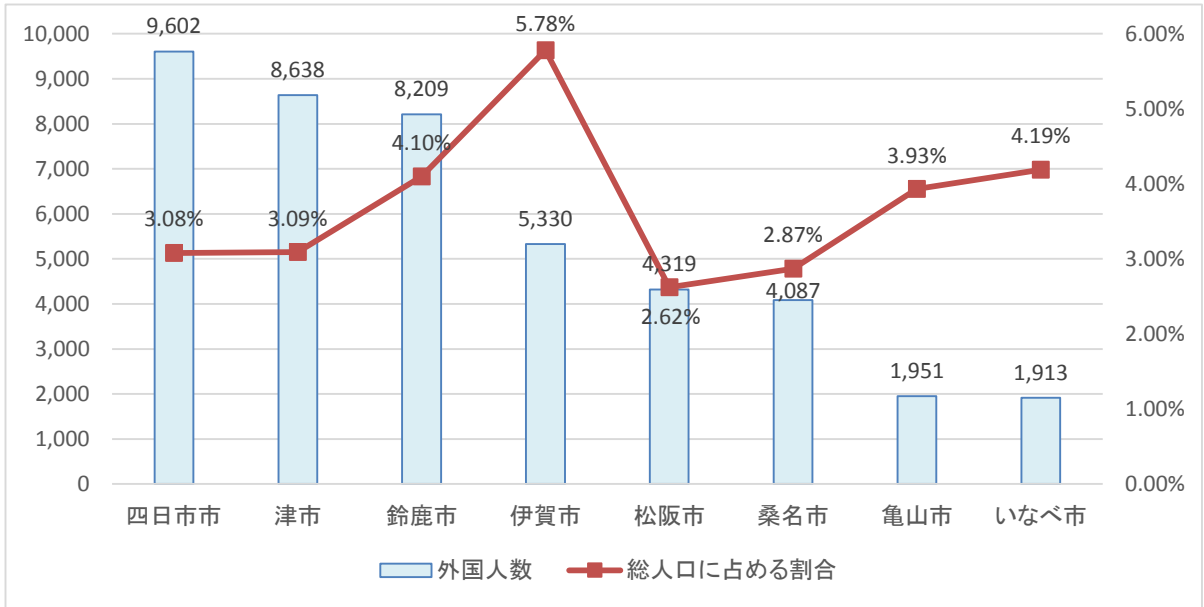


資料出所：津市「住民基本台帳」 ※いずれも12月31日時点の数値

7 県内市の外国人数と総人口に占める割合（平成30年）

県内市の外国人数を見ると、津市は四日市市に次いで多く、総人口に占める割合では、三重県平均である2.77%よりも高くなっています。

図表8 県内市の外国人数と総人口に占める割合



資料出所：三重県「外国住民国籍別人口調査」 ※平成30年12月末時点

【津市】人口動向のポイント

8 津市への移住者に対するアンケート結果

① 移住のきっかけ

津市に実際に移住した人へのアンケートを見ると、移住のきっかけとしては、「実家の近くに
戻りたい」、「地方で働きたい・田舎で暮らしたい」という人が多く、次いで「環境の良いところ
で子育てしたい」、「定年後に地方でのんびりしたい」という回答が多くなっています。

図表9 移住のきっかけ

移住のきっかけ	H30	割合	H29	割合	H28	割合
地方で働きたい・田舎で暮らしたい	5人	18.5%	2人	22.2%	2人	28.6%
環境の良いところで子育てがしたい	0人	0.0%	3人	33.3%	1人	14.3%
定年後に地方でのんびりしたい	3人	11.1%	0人	0.0%	1人	14.3%
実家の近くに戻りたい	8人	29.6%	0人	0.0%	2人	28.6%
観光等で訪れて好きになった地域で暮らしたい	2人	7.4%	1人	11.1%	0人	0.0%
趣味に興じたい	2人	7.4%	0人	0.0%	0人	0.0%
その他	7人	25.9%	1人	11.1%	1人	14.3%
不明	0人	0.0%	2人	22.2%	0人	0.0%

② 移住後の生活基盤

移住後の生活基盤としては、「企業等への就職」が最も多く、次いで、「起業・創業・自営業」
となっています。

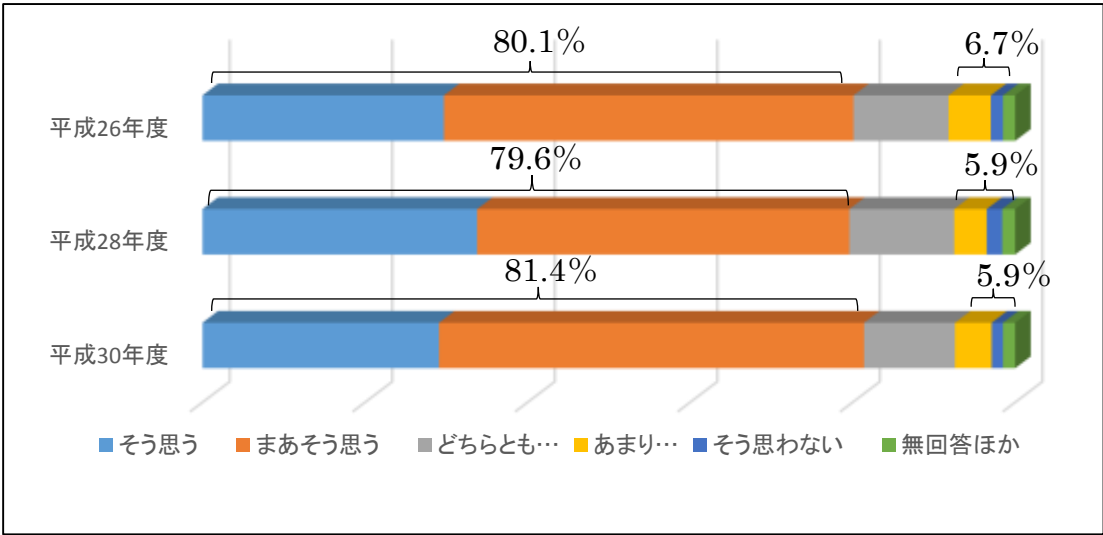
図表10 移住後の生活基盤

移住後の生活基盤	H30	割合	H29	割合	H28	割合
企業等への就職	33人	80.5%	4人	40.0%	1人	12.5%
農業	1人	2.4%	2人	20.0%	1人	12.5%
林業	0人	0.0%	1人	10.0%	0人	0.0%
漁業	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	12.5%
起業・創業・自営業	5人	12.2%	3人	30.0%	1人	12.5%
年金	1人	2.4%	0人	0.0%	3人	37.5%
その他	1人	2.4%	0人	0.0%	1人	12.5%

9 市政アンケート結果

市政アンケートで「総合的に判断して住みやすい」と回答した割合は、平成 30 年度に 81.4%
となり、目標値である 90.0%には至らないものの、平成 26 年と比べて増加しました。

図表11 「総合的に判断して住みやすい」と回答した割合



資料出所：市政アンケート結果より作成

	そう思う	まあそう思う	どちらとも いけない	あまり そう思わない	そう思わない	無回答ほか
平成 26 年度	29.7%	50.4%	11.7%	5.2%	1.5%	1.5%
平成 28 年度	33.8%	45.8%	12.9%	4.0%	1.9%	1.6%
平成 30 年度	29.1%	52.3%	11.2%	4.5%	1.4%	1.5%

10 結婚の過程

社人研による出生動向基本調査を見ると、平均初婚年齢は上昇し続けており、晩婚化が進行
しています。

図表12 平均出会い年齢と平均初婚年齢の推移

調査(調査年次)	夫		妻		平均交際期 間(年)
	平均出会い年齢	平均初婚年齢	平均出会い年齢	平均初婚年齢	
総 数					
第9回調査(1987年)	25.7	28.2	22.7	25.3	2.54
第10回調査(1992年)	25.4	28.3	22.8	25.7	2.95
第11回調査(1997年)	25.1	28.4	22.7	26.1	3.37
第12回調査(2002年)	24.9	28.5	23.2	26.8	3.57
第13回調査(2005年)	25.3	29.1	23.7	27.4	3.76
第14回調査(2010年)	25.6	29.8	24.3	28.5	4.26
第15回調査(2015年)	26.3	30.6	24.8	29.1	4.26
恋愛結婚					
第9回調査(1987年)	24.1	27.3	21.6	24.7	3.15
第10回調査(1992年)	24.2	27.6	21.9	25.3	3.38
第11回調査(1997年)	24.2	27.9	22.1	25.7	3.67
第12回調査(2002年)	24.2	28.0	22.7	26.5	3.84
第13回調査(2005年)	24.6	28.6	23.0	27.1	4.07
第14回調査(2010年)	24.9	29.3	23.6	28.1	4.48
第15回調査(2015年)	25.4	30.0	24.1	28.7	4.55

資料出所：出生動向基本調査（平成 27 年 6 月実施）

【津市】人口動向のポイント

1 1 雇用の状況

津市の有効求人倍率を見ると、全職種で 1.79 倍となり、全国平均（1.53 倍）を上回っています。一方で職種別にみると、「事務職」や「運搬・清掃・包装」の倍率は 1 倍を切るなど、求人と求職がミスマッチの状況があります。

図表 1 3 職種別の有効求人倍率

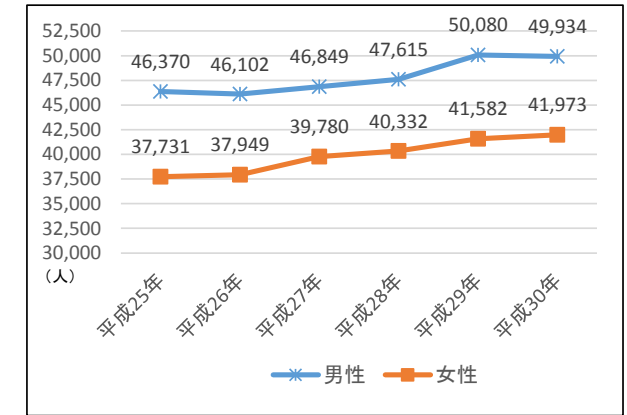
①有効求人倍率（平成30年12月末時点）

全職種	専門・技術職	事務職	販売職	サービス職	保安職
1.79倍	2.83倍	0.62倍	4.79倍	3.72倍	7.81倍
生産工程	機械運転・輸送	建設・採掘	運搬・清掃・包装	津公共職業安定所 「ハローワーク☆ニュース津」	
2.00倍	3.25倍	6.25倍	0.86倍		

※学卒を除きパートを含む常用

なお、雇用保険被保険者数や雇用保険適用事業所数は、雇用情勢の改善を受け、増加傾向にあります。

①雇用保険被保険者数（各年度 10 月末時点）

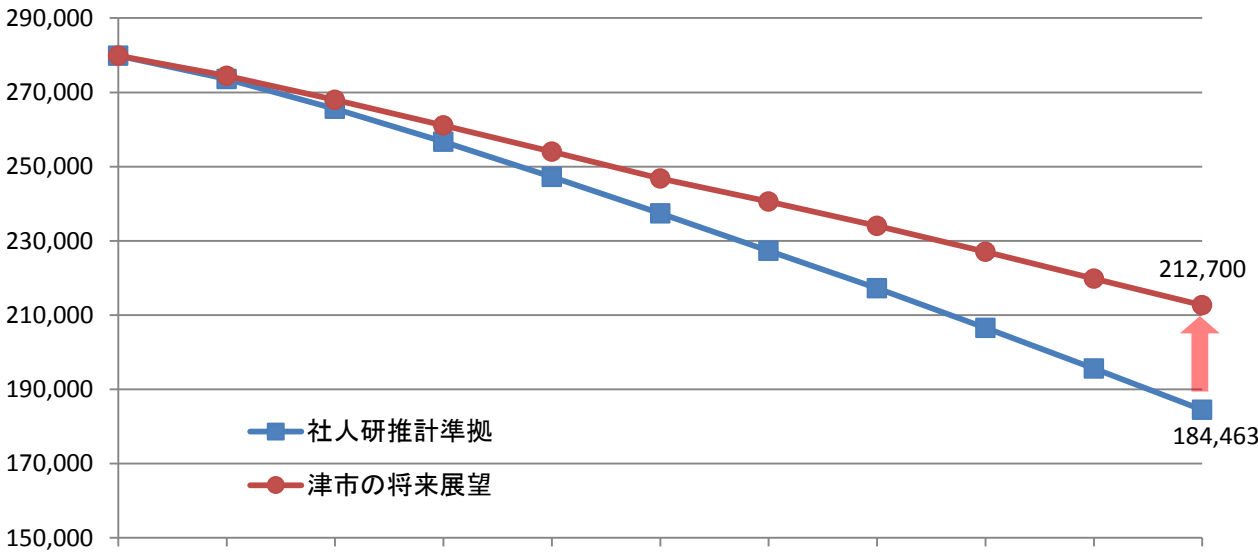


②雇用保険適用事業所数

平成25年	4,102
平成26年	4,176
平成27年	4,244
平成28年	4,319
平成29年	4,447
平成30年	4,496
増加率	9.61%

資料出所：津公共職業安定所「ハローワーク☆ニュース津」

図表 1 4 津市の人口の将来展望



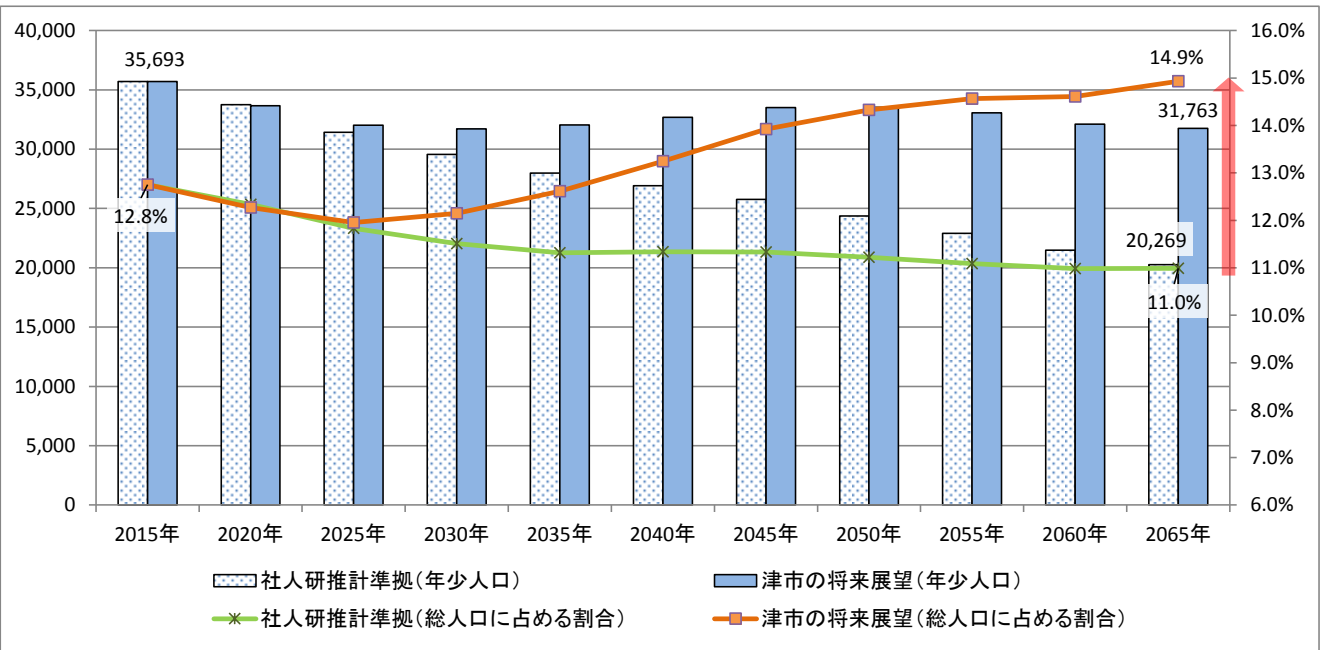
2015年 2020年 2025年 2030年 2035年 2040年 2045年 2050年 2055年 2060年 2065年

（備考）社人研推計準拠は、国において社人研の推計を機械的に延長されたデータを元に作成し、令和 47 年（2065 年）まで機械的に延長したものです。

（1）年少人口

年少人口の割合は、平成 27 年（2015 年）の 12.8%から低下するものの、年少人口の減少に歯止めがかかる令和 12 年（2030 年）頃から上昇する見込みです。

図表 1 5 年少人口の将来展望



1 2 津市の人口の将来展望

現在の状況を踏まえ、第2期計画における人口の将来展望を示します。

社人研推計を基本として、過去の転入超過数や自然増減の状況や国・県が示す将来目標値等を参考に、①転入超過数を 1 0 0 人、②合計特殊出生率が人口置換率 2.07 まで下記の表のとおり上昇すると仮定すると、総人口は社人研推計よりも 28,237 人多い 212,700 人になると見込まれます。

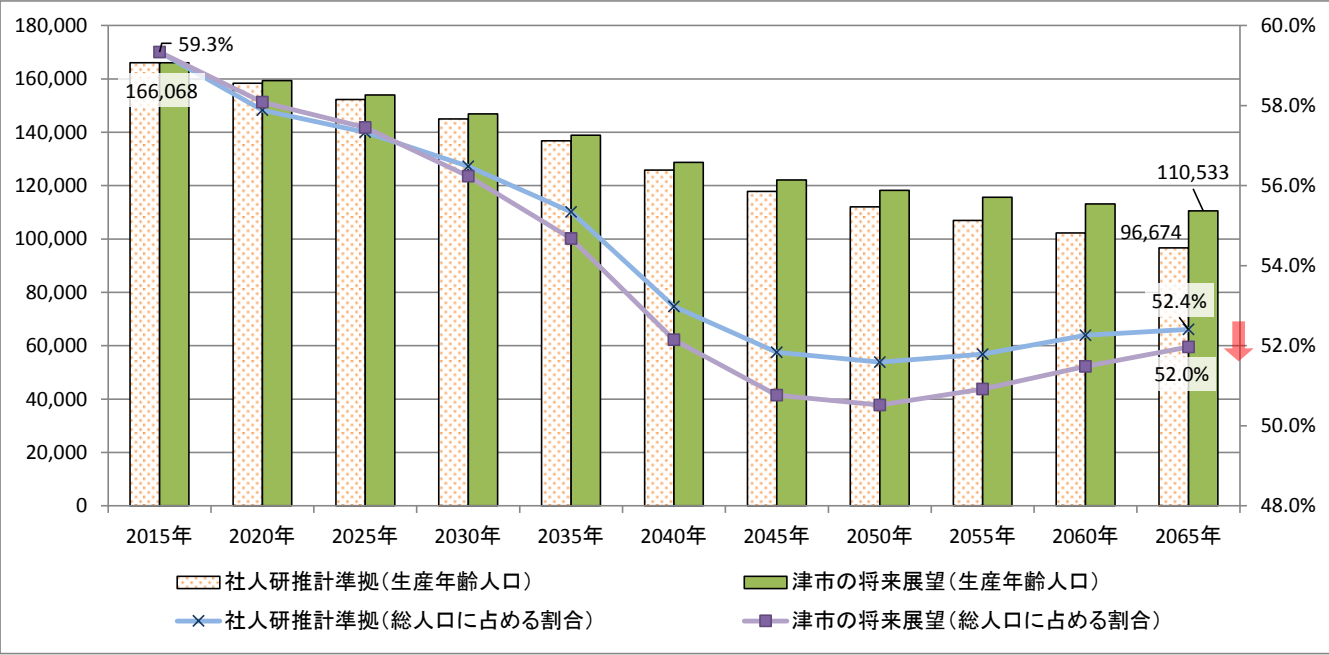
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
合計特殊出生率	1.50	1.60	1.70	1.80	1.90	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
転入超過数（人）	1 0 0	1 0 0	1 0 0	1 0 0	1 0 0	1 0 0	1 0 0	1 0 0	1 0 0	1 0 0

【津市】人口動向のポイント

(2) 生産年齢人口

生産年齢人口の割合は 59.3%から 2065 年に 52.0%へと低下し、社人研推計準拠よりも 0.4%低下しますが、年少人口の増加によって、実人数としては約 13,859 人の増加となります。

図表 1 6 生産年齢人口の将来展望



(3) 老年人口

老年人口の割合は平成 27 年（2015 年）時点で 27.9%となっていますが、令和 27 年（2045 年）頃をピークに減少していく見込みです。

図表 1 7 老年人口の将来展望

